

語学以外の専門分野で日本語を使って  
仕事をしている外国人を紹介する

# にほんご ハローワーク

## Q1: 来日してから現在の仕事にいたるまでの経緯を教えてください。

ペンシルベニアの大学で日本語を学んだのち、1年間の交換留学生として関西外国語大学に入学しました。日本に対する最初の興味を抱いたのは小学生のときです。日本について学ぶ授業で、日本独自の掛け軸や屏風、書道などを見て、そしてエキゾチックな雰囲気憧れを抱きました。93年、長野で働きませんかという誘いを受けて、長野へやってきました。その後、新たな縁あっていまの会社である「榎一市村酒造場」に入社し、会社再構築の仕事に取り組むことになったのです。榎一は、300年近い歴史をもつ日本酒酒造会社です。そこには、古くから受け継がれてきた造り酒屋としての専門技術や職人たちの精神、蔵や日本家屋の美しさ、機能が詰まっています。私は会社から「あなたの外国人としての価値観や目線で榎一を見て、変だと思ふことがあったら教えてください」といわれ、榎一の歴史をもっと大事にする必要がある、と痛感したのです。小学生のころから憧れてきた日本独自のシンプルで美しい生活や、先人たちの知恵を21世紀に引き継ぎ、進化した形で生かすことが重要だと考え、それを会社に訴えてきました。古い酒蔵の風合いを生かしたレストラン「蔵部」はその実現例のひとつです。現在は、2006年にオープンするゲストハウス「榎一客殿」の準備や、「桶仕込み保存会」の法人化などに携わっています。桶仕込みとは昔の酒屋が用いていた技術です。これを復活させようと呼びかけたら、30社以上の企業が賛同してくれました。伝統技術の継承が、確実に収入に結

びつくような仕組みも作りたいのです。

## Q2: 日本語はどのようにして学んできましたか?

交換留学生として来日した当初は、まわりの人の言葉を聞き取ることもできませんでした。もっと勉強しなくちゃ、でも楽しく勉強しないと続かないと思い、カラオケに行って日本語の歌を歌ったり、落語や漫才を自己流で覚えたりしてみました。当時はお金もない学生だったけど、ユーモアがあれば楽しみながら生きていける、そう思ったんです。さらに、日本人が面白いと感じることを理解できるようになりたかった。それがわかれば、背景にある社会的な状況も見えてくるはずだと考えていたんです。ほかには、ことわざ事典を買ってきて暗記しました。まわりに慣れなくて落ち込んでいた気分を励ます材料になりましたよ。また、ことわざは、伝えきれずにいた自分の気持ちをピタッと代弁してくれて、思いが通じ合ったこともありました。

1年間の交換留学終了後、日本語能力試験の2級に合格しました。日本で働くなら、最低限それくらいは必要だと思いました。その後、社会人として働き始めると、いろいろな価値観、いろいろな立場の人と話す必要が出てきますよね。そうした状況も日本語の鍛錬になったと思います。とくに、榎一のある小布施町に来てからは、造り酒屋の職人はもちろん、お寺の住職や着付けの先生、建築家やアーティストなど、さまざまな人と触れ合うことになりました。小布施と深い関わりのある葛飾北斎について専門家のかたから教わったのも貴重な体験です。

## 第4回 知行合一: 日本語を活かし、考えを実現する

セーラ・マリ・カミングス (Sarah Marie Cummings) さん

榎一市村酒造場・取締役。1994年入社。96年には調酒師の認定を受け、本格的に榎一の再構築に取り組む。古い酒蔵を大改造したレストラン「蔵部」や文化サロン「小布施セッション」をプロデュースし、「小布施見」(ミニ) マラソン」を企画運営するなど小布施の町起こしにも貢献。アメリカ・ペンシルベニア州出身。



就職してからは、日本語の勉強のための勉強はしていませんが、日常的に多くの人から学んできたと思います。

## Q3: 日本語の面白さとは何だと思いますか?

最近、一番好きな言葉は「知行合一」。考えと行動はひとつのものであるべきである、という意味です。知っているのに行動を起こさないのは知ったことにならないし、行動に移すのは知ることによって完全な形にすることです。こうした昔から伝わる価値観や信念を表す言葉を知ると、現代に生きる私たちも刺激を受けますよね。強いインスピレーションを受けて、頑張る意欲が湧いてきます。漢字という、昔からある文化も面白いですね。形を見て、すぐにパッと感ずることがある。イメージが伝わりやすい。漢字を覚えることによって、より多くのことを連想できるようにもなったと思います。たくさん素直な言葉が日本にはある、それを知ること面白いです。

## 『日本語教育通信』 第54号

2006年1月発行

編集・発行 独立行政法人 国際交流基金  
日本語事業部企画調整課  
〒107-6021 東京都港区赤坂1-12-32  
アーク森ビル21F

The Japan Foundation  
Planning and Coordination Div.,  
Japanese - Language Dept.

(Ark Mori Bldg. 21F, 1-12-32 Akasaka  
Minato-ku, Tokyo 107-6021, Japan)  
TEL. 03-5562-3525 FAX. 03-5562-3498  
E-Mail jfnckt@jpf.go.jp

編集協力  
財団法人 国際文化交流推進協会  
Japan Association for Cultural Exchange  
(ACE Japan)

(表紙イラスト: 大石荘子) 古紙100%再生紙使用